

学習支援システム研究の核心と拡がり

柏原 昭博

教育システム情報学会 会長, 電気通信大学大学院 情報理工学研究科 教授

学習支援システム研究では、人の学びに関わる思考や情動について理解し、システムデザインに反映することが極めて重要である。当該分野では、半世紀以上にわたり、こうした学びに対する理解を深めつつ、数多くのシステムが研究開発されてきたといえる。一方、人の学びについて理解するという事は決して容易なことではない。長い歴史を有していても、学びに内在する多面的な特徴のすべてが解明されたわけではない。現在も、またこれからも学びについて分かろうとすることを学術的問いに掲げたチャレンジは続いていくであろう。

本講演では、AIED (Artificial Intelligence in Education) を中心に、学習支援システム研究の過去・現在を外観しながら、これまで追究されてきた核心的な問いを今一度見つめ直し、情報技術の発展によって学習支援の可能性が拡がる中であって、本学会が推進すべき未来の研究像について議論したい。

講演者略歴

1989年 徳島大学大学院 工学研究科情報工学専攻 修士課程修了。

1992年 大阪大学大学院 基礎工学研究科 博士後期課程修了。
博士（工学）

大阪大学産業科学研究所助手・助教授を経て、現職。学習工学、学習支援システム研究に従事。特に、学習モデルのデザインに興味を持つ。